

校長研修だより197

「旧高校校舎」

2025・5・7 重枝 一郎

みなさんにも以前メールで届いたと思うが、施設課から「旧高校校舎の活用について」のアンケートがきた。私は、3年前の理事会でも一度話した案を出した。あと2つの案を今回付け加えた。

一般的に、廃校になった校舎の活用については様々な事例がある。地域のコミュニティとしての活用、幼児、学童、介護者健等の施設、民間企業への貸し出しなどである。他校でも空き教室活用案として、学校の特色、専門学科に合わせて、地域関連企業、スタートアップ企業、サービス関連企業などと連携し、生徒のキャリア教育の一環として活用している学校もある。

◆ 高校旧校舎の活用案（私案）

① 収入の多角化の一環としての貸し出し（MS社の現行事業）

MS社の施設貸し出し事業がある。貸出日が日曜日に限られるので、同一日に依頼が重なり、断ることもある。特に、一般教室での試験会場の需要が多いので、旧校舎も机椅子を現状のまま設置しておけば、かなり利用価値はあがると思われる。MS社とその辺りの情報交換をしていく。中高土曜休業になったので貸出日も増える。

➤この案だと、収入にも寄与する。

② 放課後塾での活用

生涯学習センターの事業の拡大版で、本校生の補習、近郊の小中学生の定期考査程度の学習支援が考えられる。スタッフは退職教員、女学院大生、募集運営はMS社に依頼する。広報への貢献が期待できる。英語塾も、プログラム次第では需要があると思う。

➤運営主体をどこに置くか、誰がするか、収支を合わせて考える人が必要である。

③ リカレント教育の場

今は、リスキング（スキルの再習得）の時代とも言われることから、年齢は関係なく、学び直しの場所として活用する。また、リカレント教育の場所として、地域の教育機関になる。

➤対象の年齢が多岐にわたるので、スタッフは、人の伴走者になる人間力を要する。

④ 通信制コース

不登校生が社会的に増加傾向にある。今感じるのは、生徒の問題というより、学校の社会変化への対応の遅れの問題である。つまり、学び方の多様化に対応すべきで、外国では当たり前になっている。不登校生にはかなり学力的素質の優れた生徒が沢山いるが、学校の画一的集団教育や教員の指導力不足による生徒個人のケアが十分になされていない中に、埋もれていることがある。通信制は、生徒募集におけるマーケティングを検討される中のひとつの考え方になる。そのスクーリングの場所として旧校舎の利用になる。自前の場所があれば、中高や大学との場所の調整も必要ない。

➤この運営をどのように位置付けるか、誰がするかなどの課題はある。当時動いていたら、他に先駆けてやることになったが、今は二番煎じになった。